

『ミネスタウェーブ』7月号  
「足で繋ぐ街～鎌倉人力車夫の想い～」



【公式】東海大学テレビ班

3週目(クリックして聴く)  
夏と言えば「怪談」ということで、怪談の魅力や怪談を語る際の工夫についてお話を伺い、怪談についてのイメージを変えました。

鎌倉市にある株式会社カマクランで人力車を走らせている池田理文さん。会社の立ち上げメンバーの一人である彼は、日々観光客を乗せて歴史と自然が調和する鎌倉の街を案内し、その魅力と温もりを届けている。また一期一会の出会いを大切にしながら、心に残るひとときを提供している。そんな池田さんが人力車に込める想いと情熱に迫る。

1週目(クリックして聴く)  
意味がないと感じる時間について話題にあげ、インタビューナどから過ごしている時間に意味を見いだせることができたらよいと考えました。

2週目(クリックして聴く)  
浴衣の着付けができるようになれば、夏祭りや花火大会をより楽しむことができるのではないかと取材や実践からその良さを伝えました。

4週目(クリックして聴く)  
節約をテーマに、普段のお金の使い方を見直し、節約をする上で目標を明確にすることで意欲を高め、無理なく続けられる工夫を伝えました。

5週目(クリックして聴く)  
2000年代の恋愛をテーマに、積極的にアノログな当時の恋愛と、SNSが普及した現代の恋愛観を比較しました。

## テレビ班

番組Youtube [まこわら](#)

# こうわプロジェクト スタジオ通信

No.230  
発行日  
8月13日

編集担当

安藤／春日／海和

一言

## こちらラジオ

### 番組制作部



## 放送情報

湘南平塚コミュニティ放送  
(FM 湘南ナパサ 78.3Mhz)  
毎週火曜  
20:00~20:30 オンエア



【公式】東海大学ラジオ班

## 引き続き学祭に向けて準備中！



建学祭にむけて各グループが準備中です！また、同時に並行で新しい取り組みが始まることも・・・？楽しみにしていてください！！

当プロジェクトのメンバーが企画会議に参加した平塚市の広報番組『ひらつかシングス』が、YouTubeの平塚市公式チャンネルで公開されています。今回参加させていただいた番組「Vol. 2 3 平塚まちなか活性化隊」が公開されました。ぜひご覧ください！

ひらつかシングスYouTubeはこちから

一最新の同人誌はこち  
ら

DOZINEでは、先月に引き  
続き「ファッショントピック」  
第2号に向けて、メンバーが  
制作を進めております。ど  
んな内容になるのか、メン  
バーも楽しみにしていま  
す。一人でも多くの心に響  
くようなワクワクするコン  
テンツを作つて参ります！

こちらも引き続き、新し  
い仲間と共に建学祭に向  
けて準備を進めています。

プロジェクトリーダーの私  
も、他のメディアプロジェ  
クトの建学祭企画の情報に  
ワクワクしております。樂  
しい企画を生み出すため  
に、アイデアもたくさん出  
して、より面白いものにし  
ていきます。笑顔あふれる  
建学祭になるよう一所懸  
命頑張ります！それではま  
た来月！

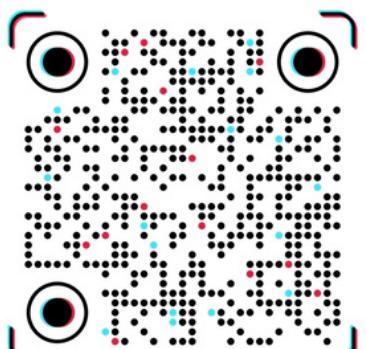
広報班Spinach!!

DOZINE

### Instagram



### TikTok



X



『Spinach!!公式SNS』

### 今月のコラム

長く続いた梅雨もようやく終わりを迎えて、夏の空気が少しずつ色濃くなっています。室内と屋外の温度差が激しく体調を崩しやすくなっていると思います。そんな暑い日が続く中、私は今年からぬか漬けを漬けてみることにしました。ぬか漬けは夏バテ予防や疲労回復に役立つといった夏には最適な食べ物です。実家では毎日のように食卓にぬか漬けが並んでおり、季節ごとに出てくる野菜も変わるので毎日の楽しみの一つでもありました。そして今ではそのぬか漬けを食べると実家に帰省したことを実感します。健康的な食事を意識し、季節の食材を取り入れて四季を感じてみるのも楽しいのではないか。（春日）

### JPOT

今月、JPOTでは新聞の投書欄への投稿を目指し、文章の作成と校閲作業に取り組みました。各自が関心のあるテーマで原稿を執筆し、投稿基準を意識しながら内容や構成を調整しました。特に「限られた字数でいかに自分の主張を明確に伝えるか」という点を重視し、何度も推敲を重ねました。執筆後はメンバー同士で原稿を持ち寄り、お互いの文章を丁寧に読み合いながら校閲を行いました。表現の工夫や説得力のある構成について活発に意見を交換する中で、客観的な視点を持つことの大切さを改めて実感しました。新しく加わったメンバーも積極的に参加し、初めての投稿に挑戦する姿が印象的でした。全員で文章を磨き上げていく過程は、まさにチームとしての成長を感じられる貴重な時間となりました。